

【路線バスとコミュニティバスの再(案)にかかるパブリックコメントでの意見に対する市の考え方及び対応】

No.	タイトル	意見要旨	市の考え方及び対応	回答内容
1	減便	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日山中溪桜ヶ丘行きコミュニティバスを使っており、朝、夕方の便がなくなると家にも帰れなくなるため、減便しないでほしい。</li> <li>・山中溪、桜ヶ丘の第五便の運行がなくなると作業所から自宅に帰る方法がなくなるため、減便しないでほしい。</li> <li>・山中溪・桜ヶ丘コースの2便で朝通勤し、5便で帰宅するために利用しているため、減便しないでほしい。</li> <li>・2歳の子供がおり、自動車の免許がないため減便しないでほしい。</li> <li>・移動支援でコミュニティバスを使う時があるため、減便しないでほしい。</li> <li>・山中溪・桜ヶ丘コースを通院で使っているため、減便しないでほしい。</li> <li>・尾崎コースについては、必要最低限の減便となるようにしていただきたい。</li> <li>・コミュニティバスの減便があると困ります。今以上の減便については中止してほしい。</li> </ul>	<p>今回の路線バスとコミュニティバス再編(案)につきましては、公共交通の持続性の確保を図るため、路線バスとコミュニティバスの重複運行区間の棲み分けを行うことにより輸送効率の改善を図るとともに、需要と供給の現状を踏まえ、利用者の少ないコースについては減便し、路線の見直しを行う予定をしております。</p> <p>また、本市では財政が危機的な状況にあることから、昨年2月に「財政非常事態宣言」を発出し、同年9月に「行財政構造改革プラン改訂版」を策定し、持続可能な行財政運営の確立に向け取組を進めているところです。</p> <p>プラン改訂版においては、令和2年度の実績が、コミュニティバスの年間の運行事業費が約4,700万円に対し、乗車人数が年間115,307人ととどまり、乗車1回につき約408円の助成となっていることを踏まえ、事務事業の見直しの1項目として掲げています。</p> <p>再編(案)に対し、様々なご意見をいただいたところですが、以上のような状況の中、市民の健康に直接関わる市民病院と保健センターの停留所については、その乗降客数等を踏まえ、別添ダイヤ案のとおり、対応をさせていただく予定です。</p> <p>また、減便やルートの変更、サービスのさらなる向上等に関するご意見につきましては、現地域公共交通網形成計画を見直す際の検討課題といたします。</p> <p>なお、将来にわたって課題となる高齢者の移動支援等の交通弱者への対応につきましては、今年度中に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、オンデマンド交通の実証実験を行う予定ですので、その検証結果を踏まえ、検討を進めてまいります。</p>	<p>市の考え方のとおり対応します。</p>
2	ルート変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桃の木台・万葉代コースの第2便を、保健センター・市役所・市民病院まで延長することで、午前中に各施設に行くことができるようになるため、保健センター・市役所・市民病院まで延長してほしい。</li> <li>・午前中の尾崎駅までの最短での移動(現状尾崎線バスルートと同ルート(所要時間21分程度))を確保してほしい。</li> <li>・午前中の尾崎駅着のバスをなんば行サザンに接続するように設定、午後は尾崎駅発のバスをなんばからのサザン到着に合わせて設定するように変更してほしい。</li> <li>・桃の木台・万葉台コースで桃の木台から市民体育館への経路がないため、体育館での各種行事開催の参加に、バスを利用する場合は市役所を経由するため遠回りでご不便なためルートを見直してほしい。</li> </ul>	<p>再編(案)に対し、様々なご意見をいただいたところですが、以上のような状況の中、市民の健康に直接関わる市民病院と保健センターの停留所については、その乗降客数等を踏まえ、別添ダイヤ案のとおり、対応をさせていただく予定です。</p> <p>また、減便やルートの変更、サービスのさらなる向上等に関するご意見につきましては、現地域公共交通網形成計画を見直す際の検討課題といたします。</p> <p>なお、将来にわたって課題となる高齢者の移動支援等の交通弱者への対応につきましては、今年度中に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、オンデマンド交通の実証実験を行う予定ですので、その検証結果を踏まえ、検討を進めてまいります。</p>	<p>市の考え方のとおり対応します。</p>
3	サービスのさらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の車離れを推奨して事故減少と行事参加による健康維持対策を進めるためにもバスネットシステムを構築してほしい。</li> <li>・今回の見直しで昼間時間帯は路線バスからコミュニティバスの運行に切り替わりますが、その際、現在路線バスで利用可能となっている定期券(通勤・通学等)が昼間時間帯のコミュニティバスで利用できなくなると考えられます。</li> <li>・特に通学定期券利用者である学生の場合、授業の時間帯(短縮授業等)により、コミュニティバス運行時間帯の利用も想定されることから、路線バス定期券利用者に対し、当該区間のコミュニティバスでの利用も受け入れてほしい。</li> </ul>	<p>今回の路線バスとコミュニティバス再編(案)につきましては、公共交通の持続性の確保を図るため、路線バスとコミュニティバスの重複運行区間の棲み分けを行うことにより輸送効率の改善を図るとともに、需要と供給の現状を踏まえ、利用者の少ないコースについては減便し、路線の見直しを行う予定をしております。</p> <p>また、本市では財政が危機的な状況にあることから、昨年2月に「財政非常事態宣言」を発出し、同年9月に「行財政構造改革プラン改訂版」を策定し、持続可能な行財政運営の確立に向け取組を進めているところです。</p> <p>プラン改訂版においては、令和2年度の実績が、コミュニティバスの年間の運行事業費が約4,700万円に対し、乗車人数が年間115,307人ととどまり、乗車1回につき約408円の助成となっていることを踏まえ、事務事業の見直しの1項目として掲げています。</p> <p>再編(案)に対し、様々なご意見をいただいたところですが、以上のような状況の中、市民の健康に直接関わる市民病院と保健センターの停留所については、その乗降客数等を踏まえ、別添ダイヤ案のとおり、対応をさせていただく予定です。</p> <p>また、減便やルートの変更、サービスのさらなる向上等に関するご意見につきましては、現地域公共交通網形成計画を見直す際の検討課題といたします。</p> <p>なお、将来にわたって課題となる高齢者の移動支援等の交通弱者への対応につきましては、今年度中に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、オンデマンド交通の実証実験を行う予定ですので、その検証結果を踏まえ、検討を進めてまいります。</p>	<p>市の考え方のとおり対応します。</p>